

**授業概要**

音への気づきから様々な音の発見と音の創作をふくめ、身の回りの物、声、あるいは楽器でのアンサンブルを演習する。アンサンブルに必要な人とのかかわりを重視しながら、教育現場での器楽合奏や即興演奏、音楽づくりに発展できるよう演習を通して指導する。学生が保育者、教員となり、アンサンブルの楽しさを子どもたちに伝えられるよう、学生自身も楽しめるような教材を指導する。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション
第2回	音の発見、
第3回	リズムの発見
第4回	打楽器、民族楽器、和楽器 効果音の奏法と演習
第5回	旋律楽器の奏法と演習
第6回	器楽アンサンブル(身の回りの音)、楽器の創作(提出)
第7回	器楽アンサンブル(リズム楽器)
第8回	器楽アンサンブル(ミュージックベル、トーンチャイム)
第9回	中間テスト(リズム打ち、奏法)
第10回	声のアンサンブル(言葉のアンサンブル)
第11回	声のアンサンブル(わらべ歌)
第12回	声と楽器のアンサンブル(わらべ歌)
第13回	声のアンサンブル(二部合唱)
第14回	声のアンサンブル(二部合唱)
第15回	グループによるアンサンブル
第16回	グループ発表期末試験

**到達目標**

- ・体、声、楽器をはじめ、様々な発音体によるアンサンブルの手法を経験し、音に対する感性を高める。
- ・グループでアンサンブルをすることで音楽を通じた心のアンサンブルも感じ取れるようにする。
- ・アンサンブルを通し、読譜、リズムなど音楽的能力を高める。

**履修上の注意**

- ・履修者の人数、音楽経験度によりシラバスの変更がありうる。
- ・グループでの活動から、出席を重視する。
- ・遅刻3回で1回欠席とする

**予習・復習**

- ・グループでのアンサンブルができるよう自分のパートは責任もって自主的練習をすること。
- ・積極的な活動参加をすること。

**評価方法**

授業への参加度(40%) 中間テスト、授業内提出物(30%)、期末試験(30%)

**テキスト**

プリント配布